

令和7年大阪市消防活動概況(速報)

大阪市消防局では、令和7年中の大阪市内での火災、救急、救助等の活動の概況を取りまとめました。なお、令和7年中の数値はすべて令和8年1月16日時点の速報値です。

◆火災件数は昨年と比べて12件増加

火災件数は733件と、前年(721件)と比較すると12件(1.7%)増加しています。令和3年までは減少傾向にありましたが、令和4年からは増加傾向にあります。

◆主な火災原因は、「たばこ」、「電気配線類」、「電気製品」

火災原因別で見ると、「たばこ」が最も多く、次いで「電気配線類」、「電気製品」、「天ぷら油」となっています。(調査継続中のもの含む)

◆救急出場件数は減少、搬送人員は増加

救急出場件数は263,034件で、前年と比較すると5,088件(-1.9%)減少し、令和2年以降、年々増加傾向にありましたが、5年ぶりに減少しました。搬送人員は218,866人で、61人(0.03%)増加しました。搬送人員は集計開始以来最多となっています。

◆救助活動件数は減少

救助活動件数は4,619件で、前年と比較すると9件(-0.2%)減少し、平成29年以来、年々増加傾向にありましたが、8年ぶりに減少しました。

令和7年 消防活動概況表

	令和7年	令和6年	増減数	増減率
火災件数(件)	733	721	12	1.7%
焼損床面積(m ²)	7,457	5,193	2,264	43.6%
損害額(千円)	837,964	596,987	240,977	40.4%
火災による死者(放火自殺者を除く)(人)	34	23	11	47.8%
放火自殺者(人)	1	3	-2	-66.7%
負傷者(人)	154	162	-8	-4.9%
救急出場件数(件)	263,034	268,122	-5,088	-1.9%
搬送人員(人)	218,866	218,805	61	0.03%
救助出場件数(件)	4,619	4,628	-9	-0.2%
火災・救急・救助以外の出場件数(件)	10,058	9,190	868	9.4%

※ 数値は、小数点以下第二位を四捨五入しており、「搬送人員(人)」のみ小数点以下第三位を四捨五入しています。

1 火災概況

(1) 火災件数

- ・火災件数は 733 件と、前年(721 件)と比較すると 12 件(1.7%)増加しています。令和3年までは減少傾向にありましたが、令和4年から増加傾向にあります。
- ・火災種別では、建物火災が 583 件で、前年に比べ 7 件(1.2%)の増加となりました。
- ・火災による死者(放火自殺者を除く)は 34 人で、前年と比較すると 11 人(47.8%)増加、負傷者は 154 人で、8 人(-4.9%)減少しました。
- ・「火災0(ゼロ)の日」は 46 日ありました。(前年と比較し 17 日減少)

(表1) 火災概況

区分	分	単位	令和7年(A)	令和6年(B)	比較(A-B)	増減率
火災件数	件		733	721	12	1.7%
火災種別	建物	件	583	576	7	1.2%
	車両		44	47	-3	-6.4%
	船舶		-	1	-1	-
	航空機		-	-	-	-
	爆発		-	2	-2	-
	その他		106	95	11	11.6%
焼建 損物 程度災	全焼	件	18	13	5	38.5%
	半焼		19	20	-1	-5.0%
	部分焼		159	168	-9	-5.4%
	ぼや		387	375	12	3.2%
床 焼 面積 損 積	面積	m ²	7,457	5,193	2,264	43.6%
	建物火災1件あたり		12.8	9.0	3.8	42.2%
	焼損表面積	m ²	3,544	2,439	1,105	45.3%
損害額	損害額	千円	837,964	596,987	240,977	40.4%
	火災1件当たり		1,143	828	315	38.0%
死傷者	死者	人	34	23	11	47.8%
	放火自殺者		1	3	-2	-66.7%
	負傷者		154	162	-8	-4.9%
あたり	火災件数	件	2.0	2.0	-	-
	焼損床面積	m ²	20.4	14.2	6.2	43.7%
	損害額	千円	2,296	1,631	665	40.8%
	人口1万人あたりの火災件数	件	2.6	2.6	-	-
	火災0の日	回	46	63	-17	-27.0%

大阪市人口 令和7年10月1日現在推計 人口2,816,247人

大阪市人口 令和6年10月1日現在推計 人口2,791,907人

※人口は、大阪市計画調整局HP掲載「大阪市推計人口年報」より抜粋しています。

※ 数値は、小数点以下第二位を四捨五入しています。

(2) 火災原因

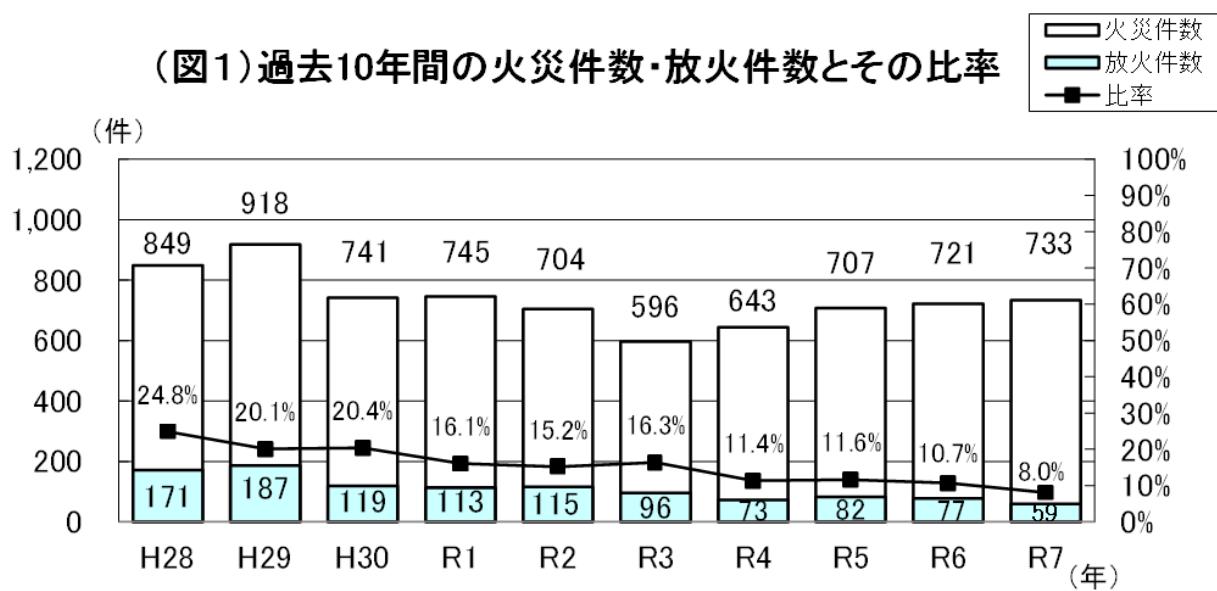
- ・主な火災原因是、「たばこ」(117件)、「電気配線類」(97件)、「電気製品」(95件)でした。(※調査継続中のもの含む)【図1参照】
- ・「たばこ」は117件で、平成30年から連続して最も多い原因であり、前年(115件)と比較すると2件増加しました。
- ・「電気配線類」は97件、「電気製品」は95件で、令和4年から増加傾向にあります。
- ・「天ぷら油」は66件で、前年(51件)と比較すると15件増加しました。
- ・「ガスこんろ」は62件で、前年(58件)と比較すると4件増加しました。
- ・「放火(疑い含む)」は59件で、前年(77件)と比較すると18件減少しました。【図2参照】

(表2) 原因別火災概況

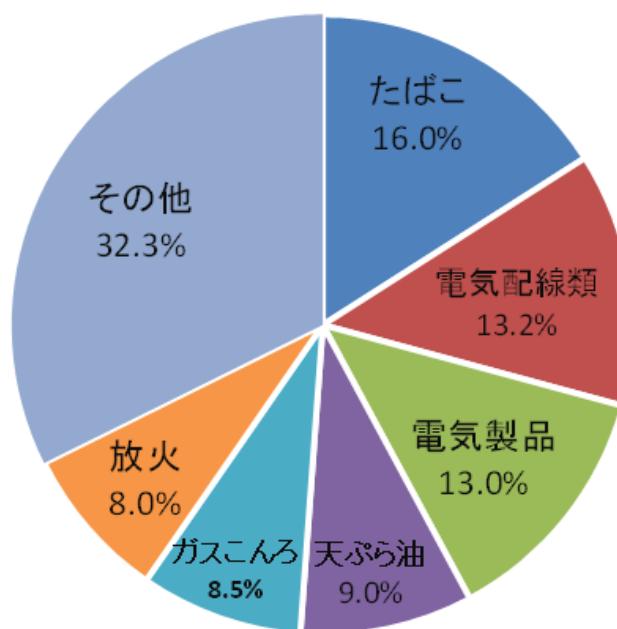
原因別		令和7年(A)				令和6年(B)				比較(A-B)		
		件数		比率		件数		比率				
たばこ	寝たばこ	117	10	16.0%	1.4%	115	11	16.0%	1.5%	2	-1	
	その他	107			14.6%	104			14.4%			
電気配線類		97		13.2%		95		13.2%		2		
電気製品		95		13.0%		86		11.9%		9		
天ぷら油	ガス	66	51	9.0%	7.0%	51	42	7.1%	5.8%	15	9	
	その他		15		2.0%		9		1.2%			
ガスこんろ		62		8.5%		58		8.0%		4		
放火 (疑い含む)	建物内	59	26	8.0%	3.5%	77	42	10.7%	5.8%	-18	-16	
	建物外		33		4.5%		35		4.9%			
自動車等(放火除く)		29		4.0%		29		4.0%		-		
電気ストーブ		16		2.2%		16		2.2%		-		
ライター		16		2.2%		13		1.8%		3		
溶接(断)機		13		1.8%		19		2.6%		-6		
ローターソク		12		1.6%		12		1.7%		-		
火遊び		12		1.6%		10		1.4%		2		
電気こんろ		9		1.2%		11		1.5%		-2		
コンデンサ		3		0.4%		6		0.8%		-3		
ストーブ(電気以外)		3		0.4%		7		1.0%		-4		
自然発火		3		0.4%		7		1.0%		-4		
たき火		1		0.1%		1		0.1%		-		
その他		62		8.5%		68		9.4%		-6		
不明(調査中含む)		58		7.9%		40		5.5%		18		
合計		733		100%		721		100%		12		

※ 数値は、小数点以下第二位を四捨五入のため合計が一致しない場合があります。

(図1)過去10年間の火災件数・放火件数とその比率



(図2)原因別火災概要(令和7年)



2 救急活動概況

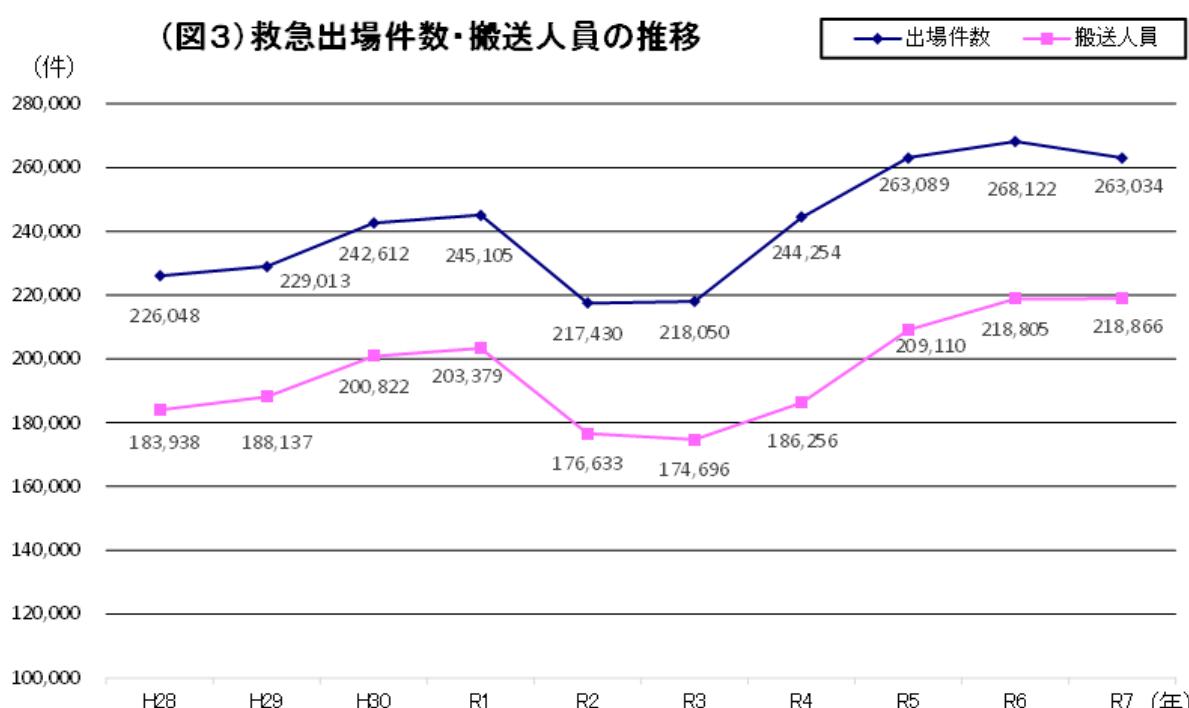
- ・令和7年中の救急出場件数は263,034件で、前年と比較すると5,088件(-1.9%)減少し、令和2年以降、年々増加傾向にありましたが、5年ぶりに減少しました。搬送人員は218,866人で、61人(0.03%)増加しました。搬送人員は、集計開始以来最多となっています。【図3参照】
- ・1日あたりの平均出場件数は約720.6件(前年比-11.9件減)で、時間に換算すると約2分に1件の割合で救急車が出場し、1年間を通じて大阪市民12.8人に1人が救急車を利用したことになります。
- ・事故種別の救急出場件数は1位が「急病」(181,735件)で、前年と比べて4,034件(-2.2%)減少し、次いで2位が「一般負傷」(44,126件)、3位が「交通事故」(13,612件)の順となっています。
- ・年齢区分別に見た搬送人員は、65歳以上が118,845人(54.3%)で、全ての搬送の半数以上を占めています。【図4参照】

(表3)救急活動概況

		令和7年 (A)	令和6年 (B)	増減 (A-B)	増減率
救急出場件数(件)		263,034	268,122	-5,088	-1.9%
搬送人員(人)		218,866	218,805	61	0.03%
1 日 あ た り	出場件数(件)	720.6	732.6	-11.9	-1.6%
	搬送人員(人)	599.6	597.8	1.8	0.3%

※数値は、小数点以下第二位を四捨五入しており、年間における「搬送人員(人)」の増減率のみ小数点以下第三位を四捨五入しています。

(図3)救急出場件数・搬送人員の推移

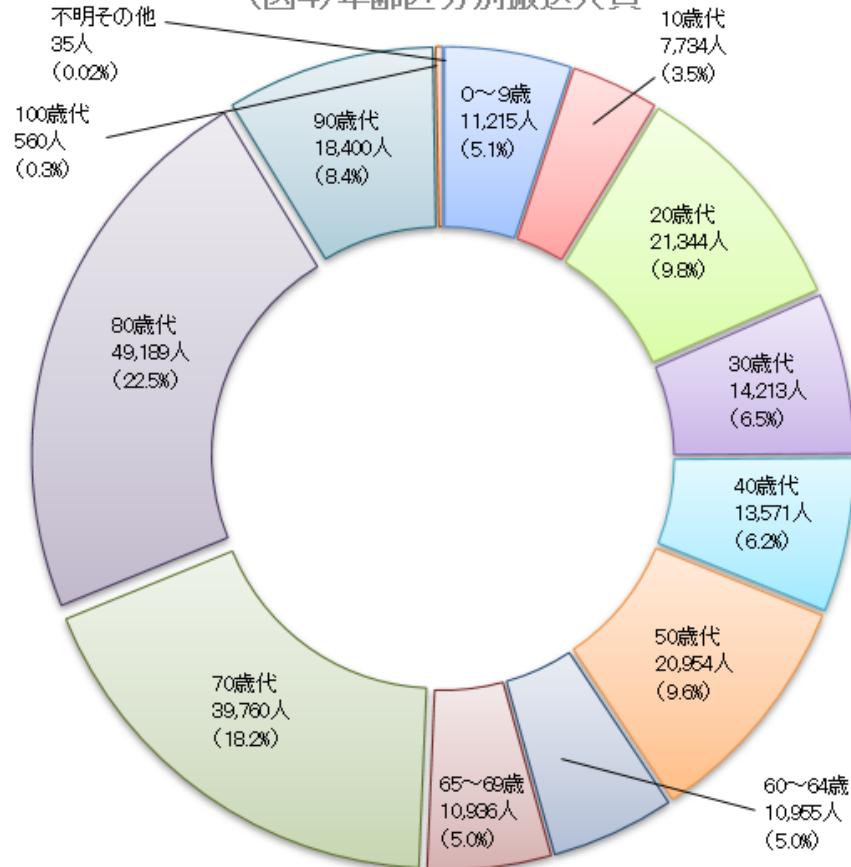


(表4)事故種別救急出場件数

	令和7年 A(件)	令和6年 B(件)	増減 A-B(件)	増減率
急病	181,753	185,787	-4,034	-2.2%
一般負傷	44,126	45,706	-1,580	-3.5%
交通事故	13,612	14,103	-491	-3.5%
加害	2,178	2,212	-34	-1.5%
自損	2,791	2,591	200	7.7%
労働災害	1,551	1,719	-168	-9.8%
運動競技	1,109	1,113	-4	-0.4%
火災	1,071	812	259	31.9%
水難	100	95	5	5.3%
自然災害	2	7	-5	-71.4%
その他	14,741	13,977	764	5.5%
計	263,034	268,122	-5,088	-1.9%

※ 数値は、小数点以下第二位を四捨五入しています。

(図4)年齢区分別搬送人員



※数値は、小数点以下第二位を四捨五入しており、「不明その他」のみ小数点以下第三位を四捨五入しています。

3 救助活動概況

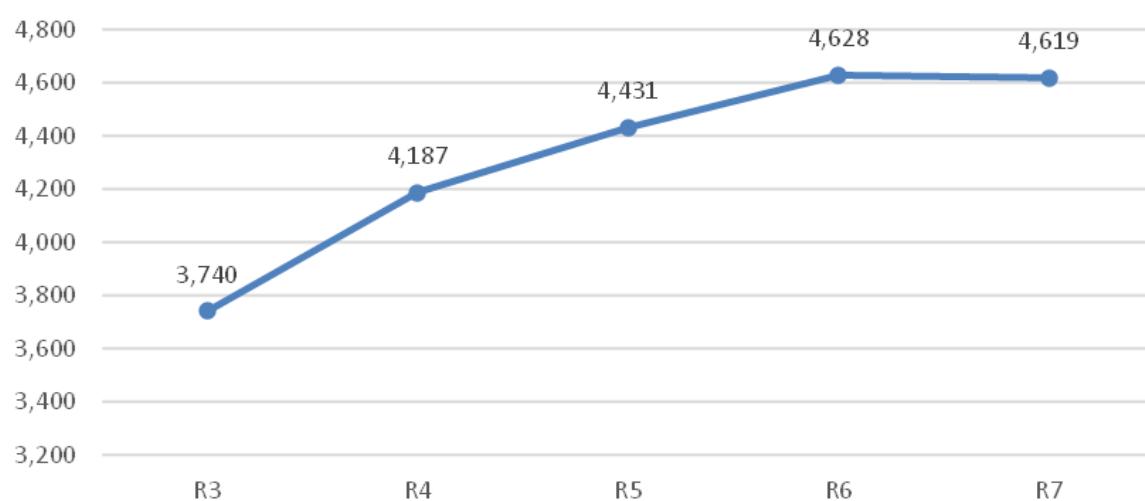
- ・救助活動(火災を除く建物事故・交通事故・水難事故・エレベーター事故時の救出活動等)件数は4,619件で、前年と比較すると9件(-0.2%)減少しました。
- ・平成29年以来、年々増加傾向にありましたが、8年ぶりに減少しました。【図5参照】
- ・令和7年中、最も増加したのは建物事故(前年比59件増)で、特に高齢者の急病の場合などで室内に閉じ込められている状況での救助要請が増加しています。

(表5)救助活動概況

		令和7年 A(件)	令和6年 B(件)	増減 A-B(件)	増減率
救助活動	建物事故	3,451	3,392	59	1.7%
	交通事故	151	199	-48	-24.1%
	水難事故	97	112	-15	-13.4%
	エレベーター事故	75	36	39	108.3%
	機械事故	5	9	-4	-44.4%
	酸欠・ガス事故	54	52	2	3.8%
	風水害	0	0	0	0.0%
	その他	786	828	-42	-5.1%
	合計	4,619	4,628	-9	-0.2%

※ 数値は、小数点以下第二位を四捨五入しています。

(図5)救助活動件数(過去5年)



4 火災・救急・救助以外の活動概況

- ・火災・救急・救助以外の活動は、10,058 件で、前年と比較すると 868 件(9.4%)増加しました。
- ・危害排除の中では、交通事故でのガソリン漏れなどの「危険物」が、785 件と最も多くなっています。

(表6) 火災・救急・救助以外の活動概況

			令和7年 A(件)	令和6年 B(件)	増減 A-B(件)	増減率	
火 災 ・ 救 急 ・ 救 助 以 外 の 消 防 活 動	その 他 の 消 防 活 動	危険物	785	819	-34	-4.2%	
		集災・特災	3	0	3	-	
		ガス・酸欠事故	93	97	-4	-4.1%	
		浸水・漏水	118	67	51	76.1%	
		倒壊・破壊	161	224	-63	-28.1%	
		異臭	43	30	13	43.3%	
		電気	13	8	5	62.5%	
		毒劇物	3	1	2	33.3%	
		その他の事故	109	87	22	25.3%	
		水防活動等	4	3	1	33.3%	
火 災 ・ 救 急 ・ 救 助 以 外 の 消 防 活 動		その他	1,289	1,192	97	8.1%	
		小計	2,621	2,528	93	3.7%	
		誤報	7,414	6,613	801	12.1%	
		虚報	23	49	-26	-53.1%	
		合計	10,058	9,190	868	9.4%	

※ 数値は、小数点以下第二位を四捨五入しています。